

みずほCustomer Desk Report 2019/08/05 号(As of 2019/08/02)

【昨日の市況概要】

	USD/JPY	EUR/USD	EUR/JPY	公示仲値	107.17
TKY 9:00AM	107.44	1.1080	119.03	GBP/USD	1.2127
SYD-NY High	107.56	1.1116	119.12	AUD/USD	0.6819
SYD-NY Low	106.51	1.1070	118.27		0.6763
NY 5:00 PM	106.61	1.1107	118.35		0.6801
NY DOW	26,485.01	▲ 98.41	日本2年債	-0.2100	▲ 2.00bp
NASDAQ	8,004.07	▲ 107.05	日本10年債	-0.1700	▲ 4.00bp
S&P	2,932.05	▲ 21.51	米国2年債	1.7078	▲ 3.82bp
日経平均	21,087.16	▲ 453.83	米国5年債	1.6599	▲ 3.20bp
TOPIX	1,533.46	▲ 33.89	米国10年債	1.8426	▲ 5.87bp
シカゴ日経先物	20,885	▲ 160	独10年債	-0.4975	▲ 4.70bp
ロンドンFT	7,407.06	▲ 177.81	英10年債	0.5500	▲ 4.30bp
DAX	11,872.44	▲ 380.71	豪10年債	1.0875	▲ 10.80bp
ハンセン指数	26,918.58	▲ 647.12	USDJPY 1M Vol	7.00	0.78%
上海総合	2,867.84	▲ 40.93	USDJPY 3M Vol	7.24	0.67%
NY金	1,457.50	25.10	USDJPY 6M Vol	7.13	0.47%
WTI	55.66	1.71	USDJPY 1M 25RR	-1.78	Yen Call Over
CRB指数	173.35	0.55	EURJPY 3M Vol	7.72	0.49%
ドルインデックス	98.07	▲ 0.30	EURJPY 6M Vol	7.77	0.40%

東京	前日深夜にトランプ米大統領が対中関税第4弾を試算すると公表したことにより、東京時間のドル円は107.44レベルでオープン、ストップ高を巻き込みながら、朝方からドル円は下落。ファストムーブの売りの流れも相場を下押しし、一時ドル円は106.86をタッチ。その後は実需の買いなどにも支えられて、相場は小康状態となり小刻みに上下。結局107.07レベルで海外に渡った。(東京15:30)
ロンドン	ロンドン市場のドル円は、107.07レベルでオープン。前日のトランプ米大統領による中国への課税発言と、アジア時間の中国報復措置検討の報道により米中通商問題へ注目があつまる中、ドル円は上値の重い展開。106.79まで売られ、106.84レベルでNYに渡った。ドル円は、1.2118でオープン。昨日に英中銀政策決定会合を終え、手がかり材料に乏しい中、1.2101から1.2135の小幅レンジで推移。1.2128でNYに渡った。(ロンドン17:00 00531 444 179 マルビル)
ニューヨーク	昨日の9/1からの対中関税10%発表を受け、米中貿易摩擦激化懸念から海外市場で更に売りが強まり、6/25に付けた直近の安値106.78に迫る106.79まで下落し、106.84レベルでNYオープン。朝方は注目の米雇用統計で非農業部門雇用者数変化が予想範囲内の結果であったものの前回分が大きく下方修正され、失業率も若干上昇したことから106.61まで下落する。しかし、トランプ大統領が関税発動を遅らせることも考えているとのレポートが出たとの話や、ロセンブレイトン連銀総裁が7月の利下げを必要ないと反対した理由が伝わる中、ショートカバーが急速に持ち込まれ、107.28まで急伸する。しかしドロー国家経済会議委員長の「トランプ大統領は中国との進展に満足していない」、等の発言も伝わり、米中通商協議が急速に合意に達しないとの見方や、次回FOMCでの追加利下げ期待が更に強まったことから、戻り売りに106.54まで下落する。午後一旦下げた株式市場が再び下げ幅を拡大させる展開に、ドル円は106.51まで下落する。終盤にかけては、週末を控えた調整中心の動きとなり、106.61レベルでクローズした。一方、昨日の対中追加関税のニュースを受け、米金利低下を受けたドル売りに、1.1115まで戻したユーロは、1.1104でNYオープン。朝方は一旦1.1079まで下落するものの、再びドル売りが強まったことから1.1116まで戻す。午後は、週末を控えた調整中心の値動きとなり、1.1107でクローズした。

当資料は情報提供のみを目的として作成したものであり、特定の取引の勧誘を目的としたものではありません。当資料は信頼できると判断した情報に基づいて作成されていますが、その正確性、確実性を保証するものではありません。ここに記載された内容は事前連絡なしに変更されることもあります。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願い申し上げます。また、当資料の著作権はみずほ銀行に属し、その目的を問わず無断で引用または複製することを禁じます。なお、当行は本情報を無償のみ提供しております。当行からの無償の情報提供を望まない場合、配信停止を希望する旨をお申し出ください。

担当:小笠原・原田

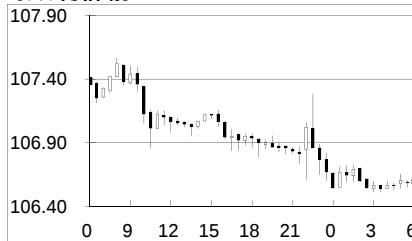
【昨日の指標等】

Date	Time	Event	結果	予想
8月2日	10:30	豪 小売売上高(前月比)	6月 0.4%	0.3%
	17:30	英 マークイット建設業PMI	7月 45.3	46
	18:00	欧 PPI(前月比/前年比)	6月 -0.6%/0.7%	-0.3%/0.8%
	18:00	欧 小売売上高(前月比)	6月 1.1%	0.3%
	21:30	米 非農業部門雇用者数変化	7月 164k	165k
	21:30	米 失業率	7月 3.7%	3.6%
	21:30	米 平均時給(前月比/前年比)	7月 0.3%/3.2%	0.2%/3.1%
	21:30	米 貿易収支	6月 -\$55.2b	-\$54.6b
	23:00	米 耐久財受注/同(除く輸送用機器・前月比)・確報	6月 1.9%/1%	-
	23:00	米 ミシガン大学消費者マインド・確報	7月 98.4	98.5

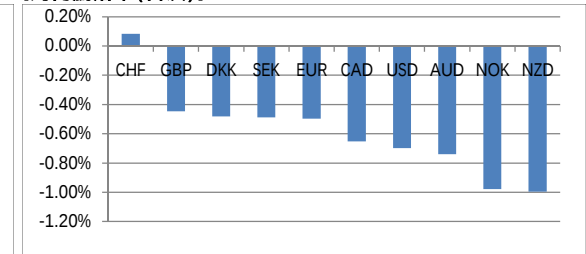
【本日の予定】

Date	Time	Event	予想	前回
8月5日	16:55	独 マークイットサービス業PMI・確報	7月 55.4	55.4
	17:30	英 マークイットサービス業PMI	7月 50.3	50.2
	22:45	米 マークイットサービス業PMI・確報	7月 52.2	52.2

【ドル円相場】



【対円騰落率(日次)】



【予想レンジ】

通貨ペア	USD/JPY	EUR/USD	EUR/JPY
想定レンジ	106.00-107.00	1.1050-1.1150	117.50-119.00

【マーケットインプレッション】

先週金曜日海外時間のドル円相場は下落する展開となった。注目の米7月雇用統計において非農業部門雇用者数変化の前回分が下方修正されたこと等から106.61まで下落。その後、トランプ大統領が対中追加関税発動を遅らせる可能性について一部で報じられると107円台前半まで急反発する局面もあったが、ドロー国家経済会議委員長の「トランプ大統領は中国との進展に満足していない」、等の発言も伝わり反落。一時106.51まで下落する展開となった。本日のドル円は引き続き下方向への動きに警戒。先週のFOMCやパウエルFRB議長の会見は想定ほどハト派ではないとの見方から追加利下げ観測が後退したもの、その後トランプ大統領が対中追加関税を発表したことや9月会合における利下げ織り込みが急速に高まっている状況。利下げ観測の高まりを背景としたドル売りや米中通商協議への懸念を背景とした円買い圧力の高まりからドル円はもう一段の下押しに注意したい。